

## 日本鐵鋼協會記事

### 理事會 (昭和 16 年度第 7 回)

日時 昭和 16 年 9 月 2 日(火) 午後 5 時開會午後 7 時閉會  
出席者 會長 渡邊三郎 副會長 吉川晴十 理事 石田四郎  
田中清治 鹽澤正一  
前會長 河村 颯  
常務委員 池田正二 石原善雄  
主事 金谷三松

### 協議事項

#### 1. 秋季大會開催地其他の件次の通り決定

- (1) 開催地は此の際東京市と決定  
(2) 日程は 10 月 17 日(金・祭) 第 25 回研究部會第 14 回製鋼部會製鋼用原料(平爐)第 2 回研究會 於櫻田門法曹會館  
10 月 18 日(土) 講演第 1 日午後 6 時より法曹會館に於て晚餐會  
10 月 19 日(日) 講演第 2 日  
10 月 20 日(月) 研究所見學 下記 8 箇所の内任意の 1 箇所を、  
選見學(午前中終了の豫定)のこと。  
A. 三菱鑛業研究所(埼玉縣大宮町)  
B. 東京帝國大學工學部附屬綜合試驗所(本郷區元富士町)  
C. 東京帝國大學航空研究所(目黒區駒場)  
D. 理化學研究所(本郷區駒込上富士前町)  
E. 鐵道大臣官房研究所(芝區海岸通 1ノ1)  
F. 東京工業大學精密機械研究所(目黒區大岡山)  
G. 早稻田大學鑄物研究所(澁橋區戸塚)  
H. 日本鋼管株式會社技術研究所(川崎市渡田)  
備考、希望の緩急順序を附し希望箇所満員の際協會にて便宜參加取  
計ひのこと。

#### (3) 大會に關する實行役員委員次の通り。

會長 渡邊三郎 副會長 吉川晴十  
總務、接待 井村竹市 總務補佐、接待 石原善雄  
講演 石田四郎 池田正二 志村清次郎 俵 信次 橋本正  
一 前田六郎 横山均次  
掛圖幻燈 山田良之助  
見學 田中清治 志村繁隆 菊池浩介 齋藤彌平 橋本正一  
前田六郎 山口眞申 横山均次  
研究會 田中清治 志村繁隆 石川 薫 岡部長衛 志村清次郎

- (4) 晝食 講演第 1、2 日兩日は會場にて希望に依り一食 1 圓にて準備し、見學は午前中に終了の豫定なるを以て準備せず。  
(5) 晚餐會 會費 5 圓とし、第 1 日(10 月 18 日)午後 6 時より櫻田門法曹會館にて開催のこと。  
(6) 見學中の旅費 全部御自辨を願ふこと。

#### 2. 下記課題を全日本科學技術團體聯合會より依頼の困難打開課題として提出の件可決。

##### (1) 題目、クロム鐵鑛資源の調査及び其開發

###### 提出理由

クロムは單に之を製鋼方面より見るも球軸承材、高速度鋼、不銹鋼、耐熱鋼、窒化鋼及び兵器材料等の如き特種鋼の主要成分たるは諸人の克く知る所なるが殊に近來各方面に所謂代用鋼の使用を餘儀なくせらるゝの時に當り將來其需要の激増す可きは火を踏るよりも

明かなり、

一方クロム鐵の製造に適するクロム鐵鑛の産地は從來主として北海道日高國の日東、八田の兩鑛山に限られ僅に本邦需要の約半額を産するに過ぎず他は之を遠く比律賓よりの輸入に仰ぎたる有様なりと聞く、然かも最近同國に於ける本邦資金の凍結は全く之を不可能ならしむるに至れり、事情かくの如くなるを以て日滿充は勿論佛印等に於ける此種鑛物資源の調査と開發とは眞に一日も忽せになす可らざる喫緊事たるを確信す。

##### (2) 題目 鑄物用コークスの品質向上に關する對策

###### 提出理由

現在製造され供給されるコークスは需要激増のためか取分け硫黃含有量等多く且屑粉等に碎け易く熔解作業に於て著しく低能率のものなり、而して完全なる高温の熔融地金を得るに苦み従つて鑄造品に熔解不完全より來る不良品極めて多し、一方鑄造品は現下の最大急務なる國防兵器類の生産擴充に對して大なる役目を有するものにしてこれが不良品の續出は最も大なる生産阻害を爲す事明白なり、依つて現下に於てかゝる燃料製造方面並に原料獲得方面に於て銳意優秀コークス製造に眞劍の對策を建てられん事急務中の急務なりと信ず

##### (3) 題目、鐵鑛自給策

###### 提出理由

馬來、比島等よりの輸入杜絶により鐵鑛の供給量激減す、之が對策として國內及び支那、海南島、佛印各鑛山を急遽開發すると共に各種貧鐵處理法の適用を研究し、我國勢力圏内に於ける鐵鑛石確保の實を擧ぐるを急務とす。

##### (4) 題目、鋼材検査法の合理化

###### 提出理由

鋼材検査法の適正を缺く爲め實用上故障を生じ又は實用上差支なきものも不合格として廢却せられ器材整備上に齟齬を來す場合多し、速に検査法の研究によつて其の適正を期すること必要なり。

##### (5) 題目、特殊鋼製造用特殊金屬自給策

###### 提出理由

ニッケル、モリブデン、コバルトその他特殊金屬を自給する爲め國內資源の利用法、例へば含ニッケル、コバルト貧鐵鑛中よりニッケル或はコバルトを分離する方法等の研究を至急促進するを要す。

##### (6) 題目、低磷、低硫の鉄鐵及び原鐵の生産

###### 提出理由

現在低磷、低硫の鉄鐵及び原鐵の供給は不足にして高級鋼製造上困難を來たし居る状態なり、將來は益々甚しきに至ること明かなり、この際之が製法を研究し供給に不足なからしむることは現下の状態に對して緊要なりと思ふ。

##### (7) 題目、強力鋼の使用による鐵使用量の節減

###### 提出理由

一般用普通壓延鋼材の強度を増すことに依りて使用鋼材の寸法を小にすれば構造物の強度を減することなくして鐵の使用量を減ずることを得、鋼の強度の増大は簡單なる熱處理又は成分の變化によりて實行可能なるにより至急鋼材使用者と製鋼者との綜合研究を必要とす。

3. 事務員 2 名、各頭書の日附を以て備入のこととす。

昭和 16 年 8 月 20 日 須永菅夫

昭和 16 年 9 月 3 日 山本 榮

4. 研究會報告書類の會員へ配布方法

5. 入退會者及び會員異動 (728 頁参照)

會員異動總計表(昭和 16 年 8 月 1 日~31 日)

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	—	—	+ 7	+32	+39
退會者	—	—	—	- 2	- 1	- 3
死亡者	—	—	—	—	- 1	- 1
轉格者	—	—	—	—	—	—
8月末現在	13	57	24	2,347	2,422	4,863

退會者 正會員 比江島英一君 川崎國弘君  
准會員 助川 光男君

准會員 高寺健吉君 昭和 16 年 7 月 27 日  
逝去せられたり哀悼に堪へず、茲に謹みて弔意を表す

大日本窯業協會, 日本鐵鋼協會聯合トリベ用耐火煉瓦研究會

(第5次)

日 時 昭和 16 年 8 月 30 日(土) 自午後 1 時 30 分至午後 5 時

場 所 麴町區有樂町 電氣俱樂部

出席者 (順位敬稱略)

(窯業協會側) 黒田 泰造 永井彦一郎 高田 安雄 毛利 定男  
若林 滋 稻垣 豊吉 笹井熊之助

(商工省) 島居 直三

(鐵鋼協會側) 井村 竹市 石原善雄代理 佐々木吉備三郎  
松下長久代理 郷 義二郎 佐々木茂次 主事 金谷三松

協議事項

- (1) スリーフ煉瓦の長さの件
- (2) 造塊用煉瓦(定盤煉瓦)の名稱の件
- (3) 注入管煉瓦の寸法規格の件
- (4) 次回の會期を 10 月 11 日(土) 午後 1 時 30 分~午後 5 時とすること。

新 入 會 者

(昭和 16 年 8 月 1 日~8 月 31 日)

居 所	勤 務 先	會員別	入會者氏名	紹介者氏名
麴町區有樂町 1 の 11 東日會館		正	滿洲鑄物會社	金谷 三松・村松橋太郎
市川市砂河原 948	篠原機械會社	"	千葉 逸 郎君	網谷 俊平・金谷 三松
吳市西片山町 83	吳海軍工廠製鋼實驗部	"	胡 田 優君	堀田 秀次・金谷 三松
深川區扇橋 3 の 8		"	進 猛君	金谷 三松・村松橋太郎
大阪府北河内郡三郷町 松下乾電池會社		"	市川 保 忠君	" "
大阪市西淀川區姫島町 1,564		"	帝國鑄鋼所	" "
橫濱市鶴見區上末吉町 1,184	辰馬鐵工所	"	大 澄 武 雄君	" "
滿洲國奉天市大東區珠林街 2 段 滿洲鑄物會社研究課		准	黒 木 安 孝君	金 谷 三 松
大森區北千束町 648	東京工業大學	"	井 手 正 俊君	山 田 良 之 助
兵庫縣武庫郡大庄村 日亜製鋼會社		"	池 浦 貞 雄君	大 山 良 一
八幡市 門田職員合宿所	日鐵八幡製鐵所	"	谷 章 一君	三 村 善 之 亮
基隆市幸町 1 の 3	臺灣船渠會社	"	工 藤 勝 三君	飯 高 一 郎
長崎市西坂町 40	三菱重工業會社社長崎製鋼所	"	昌 武 茂 夫君	山 口 富 士 夫
福島縣河沼郡日本橋村廣田 三菱鋼材會社廣田工場	工學士	"	甲 賀 正 一君	藤 井 寛
川崎市鹽濱町 特殊製鋼會社川崎工場		"	永 露 健 一君	金 谷 三 松
大森區大森 5 の 22	特殊製鋼會社製鋼課	"	小 林 正 吉君	" "
橫濱市鶴見區鶴見町 296	日本鋼管會社川崎工場	"	山 田 千 春君	溝 呂 木 操
名古屋市東區西二葉町 名古屋帝大理工學部應用化學教室		"	鈴 木 稔君	久 恒 中 陽
米子市久米町 日本曹達會社米子製鋼所		"	關 戸 巖君	瀬 戸 口 正 生
名古屋市東區八坪町 1 の 9	名古屋帝大理工學部	"	近 藤 秀 雄君	久 恒 中 陽
長崎市松山町 113	川南工業所香燒島造船所	"	高 崎 寅 喜君	金 谷 三 松
神戸市灘區天城通 8 上野館	神戸製鋼所	"	原 三 行君	大 澤 隆 三
吳市濱田町 11 の 8 相生方	工學士 吳海軍工廠製鋼部	"	後 藤 義 彦君	堀 田 秀 次
西宮市宮内町 53 金水方	住友金屬工業會社臨時和歌山工場	"	原 山 五 郎君	小 田 助 男
城東區大島町 日本曹達會社大島製鋼所		"	北 條 義 一君	内 田 禮 治 郎

居 所	勤 務 先	會 員 別	入 會 者 氏 名	紹 介 者 氏 名
西宮市今津浦風1の15 住友齋興寮	住友金屬工業會社鋼管製造所	准	片 桐 伊 作君	小 田 助 男
兵庫縣武庫郡大庄村東大島六ノ坪254の1	日亞製鋼會社製鋼課	"	山 元 重 夫君	吉 村 四 郎
大森區池上德持町 323	日本特殊鋼會社製鋼課	"	増 田 光 雄君	石 原 善 雄
仙臺市上染師町 20	砂鐵中間工業試驗所	"	熊 谷 賢 治君	金 谷 三 松
千葉市登戸町 2 の170		"	高 崎 榮 三 郎君	" "
川崎市下並木町19の 2 小田切方	特殊製鋼會社川崎工場	"	三 木 眞 三君	" "
横須賀市中里町 102	大華工具會社	"	池 上 和 男君	森 恒 人
名古屋市南區呼続町字東浦 95	大同製鋼會社築地工場	"	中 村 恭 一君	吉 田 正 夫
江戸川區小岩町 3 の 1, 484	吾孺製鋼所砂町工場	"	山 本 正 義君	大 川 健 次 郎
滿洲國本溪湖市宮原大和寮	本溪湖煤鐵公司銑鐵工場	"	宮 森 一 夫君	井 門 文 三
鳥取縣日野郡黒坂町大字黒坂	大阪特殊製鋼會社黒坂工場	"	長 尾 己 幸君	村 松 橋 太 郎
杉並區和泉町 376	中島飛行機會社東京製作所	"	間 田 捨 雄君	新 井 正 二
富山市下新 50 日本曹達會社富山製鋼所		"	日 尾 信 一君	小 川 宜 孝
埼玉縣北足立郡蕨町東洋精工會社	取締役工場長	"	伊 藤 長 次 郎君	久 保 田 金 五

新 刊 紹 介

日本學術振興會學術部第 19 小委員會：特殊鋼材の製造に関する研究 (5)

日本學術振興會第 19 小(特殊鋼材)委員會に於ては既に 9 回の報告を公にされた。今回公にされた報告 X は、昭和 13, 14 兩年度内に各委員その他より提出された研究報告、並に本小委員會の経過を便宜纏めたものである。これ等兩年度内に於ては、鹽基性電氣爐にて特殊鋼の熔鋼作業を調査し、これを総合的に各方面より論評し批判された。目下引續き同一問題に就ては研究中であるが、一先づ纏つた研究報告を公にされたことは、製鋼作業中最も重要で加之最も困難なる、熔鋼に関するものであるから世を裨益することが多いことに存する。その他鋼とガスの關係等種々の研究をも同時に載せてある。

内 容

- I 第 19 小(特殊鋼材)委員會に就て 委員長 俵 國 一
- II 鹽基性電氣爐に依る特殊鋼熔製作業記録の調査 俵 國 一
  - 1. 緒言 2. 鹽基性電氣爐熔製作業記録
- III 特殊鋼熔製作業の比較研究
  - 1. 鹽基性電氣爐に依る特殊鋼熔製作業記録に関する物理化學的考察 柴田 善一
  - 2. 鹽基性電氣爐製鋼作業記録に就ての二三の考察 場的幸雄
  - 3. 鹽基性電氣爐製鋼法に関する一考察 井上 克己
  - 4. 鹽基性電氣爐に依る特殊鋼熔製法の比較 室井嘉治馬
  - 5. 同上 作業記録に對する比較研究 谷 山 巖
  - 6. 同上 作業記録に對する調査報告 藤 井 寛
  - 7. 鹽基性電氣爐製鋼法に於ける鋼塊鑄込温度と鑄込速度とノズル直径との關係 鹽澤 正一

IV 熔解及び造塊に関する研究

- 1. 鹽基性電氣爐々體築造法 谷 山 巖
- 2. 鹽基性電氣爐熔解の調査 小林佐三郎
- 3. 熔鋼の水素量と濕度との關係 小林佐三郎
- 4. 酸性平爐及鹽基性電氣爐の雰囲気に関する研究 胡田 優
- 5. 爐内ガス採取法並に分析法に就て 渡邊 三郎
- 6. 鋼塊鑄込に對する普通鑄込法(上注)と傾倒式鑄込法の凝離に及ぼす比較調査 小島 豊榮
- 7. 鋼塊の縦割れに就て 川崎舍恒三・錦織清治・三本木貢治

V その他の研究

- 1. 鋼中含有水素に関する二三の實驗 荒木 逸夫
- 2. ニッケルクロム鋼の水素吸収と白點との關係 岩瀬慶三・福島政治
- 3. 白點の成因に関する一考察 本多光太郎・廣根徳太郎
- 4. 白點の X 線的研究 西川 正治・志村 繁隆

VI 昭和 16 年度第 19 小(特殊鋼材)委員會の経過

附 録

- I. 製鋼法の物理化學的研究 柴田 善一
- II. 特殊鋼材の製造に関する文獻
- III. 議事録
- 以上

B 列 5 號昭和 16 年 7 月 日本學術振興會發行 定價 6 圓 十 14 錢

注：會員各位の購入御希望には本會にて御取次の用意があります。